

若し此等に對して左様であると云ふ答がありますれば、獨り一家の幸なるのみならず、國の幸であります。然れども若し疑はしき點ありとしますれば、女子たるものは、尙一層己を訓練し、己の見識の範圍を廣くし、正しき知識を應用して、己の天職を全ふすることを務めねばなりません。

(未完)



研究

臺灣に於ける古談 (承前)

町田 則文

第二 其他人物に關する談話。

歴史以外の人物談には、事實あり、假設あり、將た事實と雖も、多少の粧飾を加へたるあり、假設と雖も、

或は事實に因由するあり、一々之を分拆するは、一朝一夕の事にあちぎるのみならず、寧ろ是れ土俗學上の、區域に屬し、教育上に左まで必要を認めざるべし。故に茲には、事實と假設とを問はず、一括して、一項の下に掲ぐることとなせり、但其中につきて、

其一 教訓的事實、

其二 愛笑的事實、

に分かれ居るは明かなれば、此小項の下に、各其事實を配彙することとせり。

教訓的事實。

- 一、劉元幹といふ人、他人の窮苦を救ひ、後其子、狀元になり富榮を致せし話。
- 二、許氏の祖母貞節を守りし話。
- 三、耳太守の敏智能く罪を判せし話。
- 四、聰慧なる幼女の話。
- 五、寧南に一老生あり、病によりて病み、謙によりて癒へし話。
- 六、貪婪なる樵夫、人を救ふの功名を、博せんとして、反て人を殺せ

し話。

七、子を愛する親と、子を虐する親との話。

八、食食の婦、他人のために、尿を食はしめられし話。

九、命姑といふ女子、山に在り羊を牧し、困苦に遇ふ毎に、外に在る夫を思ふ話。

十、自身の肘股を割き、父母を養ひし話。

十一、泉州の一富人、米衣を貧人に施し、其子顯達を得し話。

十二、錫口の兄弟五人、父の死後家産を分たんとして、官に賄ひ、自利を博せんとせし話。

十三、海瑞といへる一縣官、清廉民に溢みし話。

十四、妾あり、夫の寵を恃みて、其正妻を虐し、後殃を受けたる話。

十五、夫は武狀元となり、妻は文狀元となりし話。

中に就ら命姑の話は、二人同伴なり、今之を、倫理

の目的よりして、分類すれば、

(イ)、孝に關する話、 一件

(ロ)、真に關する話、 二件

(ハ)、仁に關する話、 二件

(ニ)、智氣に關する話、 三件

(ホ)、清廉に關する話、 一件

(ヘ)、貪慾に關する話、 三件

(ト)、謙と滿とに關する話、 二件、

(チ)、慈と不慈とに關する話、 一件、

とす、而して教訓としての、趣旨より言へば、

勸善的事實、 十五分の九。

懲戒的事實、 十五分の六。

なりとす、但一事實中、勸善と懲戒の二事と、兩存せる者は、其談話の主格目的によりて、一方に決したり。

愛笑的事實、

一、男子の子を生める話、

二、女子の鬚を生せし話、

三、一詩人、東家の女と、情を通ぜし話、

四、人に儲はるる二兄弟、志を言ふ(弟は若し我皇帝たらば、必ず豆

仁糖を食はんと言へば、兄は若し我皇帝たらば、一二百圓の銀を、

汝に貸與するは容易なり、當に豆仁糖のみならんと言へり)話。

五、三人の知識障物、何物なりやと、品評せし話、

六、怠惰人の、後生白鼻猫とならんと願ひし、(鼠は白糖を好む、白鼻

猫は白色なり、故に、暗水鼠の白糖と誤り認めて、來り食はんと

するとき、之を捕へ食ふべし、乃勞せずして食を得ん、語。

七、泉州の陳三と云ふもの、主家の娘と情を通ぜし語。

八、明の時、一老人あり、猫と鼠と親みしと、語りて人に笑れたる語。

九、方化といふ、近視の人、鶏屎を、田螺と誤りて、食せし語。

十、牛闘を悦び見て、終に蹴倒されたる語。

十一、古種といふ人の子、三字經を讀むに、「人之初」を、「初之」といふ

如き、戲讀をなせし語。

十二、四人の不具者、相謀り、畫師に、完形を描かかしめたる語。

十三、小兒の鳥を逃がせし語。

十四、一狂人、禪を穿ち、醋瓮を擔ひて行きしに、兔を捕へんとして、

瓮を地に置き、禪を脱して、之を逐ひ、爲めに瓮を倒し、禪を

破り、且時を空しく過し、雨に遇ひし語。

十五、或山に、虎姑婆といふ、老醜婆ありしといふ語。

十六、一産二子の、婦ありし語。

十七、人の犬を産みし語。

十八、生蕃の、田を耕せる土人を、殺せし語。

十九、古への人は、身軀大なりしが、漸次に小となりし語。

廿、山西絳州府龍門縣の、薛仁貴といふもの、幼より言ふこと、

能はざりしが、後父母の生日に當り、「福如東海、壽比南山」と言ふを得しとの話。

とす、中に就き、方化の話は、二人同伴とす、而して

右の談話は、固より、教訓以外に、屬すること、勿論な

るが、其談話の成立に、つきて分てば、

(イ)、或事實を寫せし語、 八件、

(ロ)、想像に屬する語、 五件、

(ハ)、諷諭に屬する語、 七件、

なりとす、中に就き、生蕃の田を耕せる土人を、殺せ

しといふ話は、臺灣に古來生蕃と稱する、一種屬あり、

(五年十一月)

常に支那人

を、殺すを嗜

み、支那人の

之を恐るる、

虎よりも甚き



の致す所にして、是れ實に、支那本土人の、常念以外に於て、特發せられし思想を、言ひ表はせる、一の古談なることを知らるるなり。

(未完)